

2017年反核廃絶の報告

報告者

和歌山県反核平和マラソン実行委員会
事務局 林口秀司

核兵器の現状

世界には現在、約1万5千発の核弾頭が存在しているといわれている
(2017年6月1日現在、長崎大学 核兵器廃絶研究センター) (別紙)

世界をめぐる戦争への危機

世界終末時計は今年1月25日に、残り2分を示すと針が進められました。
(世界終末時計は日本に原子爆弾が投下されて2年後1947年からアメリカの科学雑誌の表紙に掲載され、0時を世界の終末ときめ原爆の開発使用戦争の危機に時計の針を動かしているものです)

北朝鮮の核、ミサイル開発や発射実験など危機がある。一方ではトランプ大統領の軍事力重視の発言は戦争への危険性がたかまって来ていることから世界終末時計の針が進みました。戦争や核への危機はアメリカと旧ソ連の冷戦期よりも危険ともいられている。

核兵器廃絶の動き

昨年7月7日国連で核兵器禁止条約が国連会議で採択されました。国連加盟国の3分の2の国々が賛成しました。(122カ国) この条約は、法的拘束力あるもので、核兵器を非人道的、反道徳的としたのです。

核保有国の動き

核廃絶の高まりと共に、アメリカ、イギリス、フランスは反対の声明を出しましたが核兵器禁止条約は採決されたのです。「核の傘のした」は国際的にも孤立の道です。

日本の政府の態度

被爆国日本は、この世界の動きとは反対に、この会議をボイコットして、条約にサインをしませんでした。アメリカの「傘の下」の立場に立ったのです。
日本政府の態度に広島・長崎市民から批判が出てきているのと、国際的にも日本の姿勢に不信が出ています。



「国連会議」の会場で。空席の日本政府席。「もしあなたがここに居れば」と書かれた折り鶴がおかれています。

昨年10月に「核廃絶国際キャンペーン (ICAN)」にノーベル平和賞を発表した。

日本政府の態度にたいして、各自治体から動き

兵器禁止条約締結に参加しなかった日本政府に対して各自治体から条約への署名・批准を求める意見書が次々と出ています。4月16日現在 246自治体と広がっています。

和歌山県での動き

和歌山では、串本町議会、九度山町議会で3月23日に両議会が、「核兵器禁止条約の署名・批准をおこない、早期発効のために主導的役割を求める意見書」を全会一致で可決しました。

また、県下では非核宣言をしていない自治体は残り5市町になり、県下では圧倒的多数は非核宣言都市となりました。(日本非核宣言自治体協議会調べより)

海南市、田辺市、新宮市、高野町、紀美野町、平成30年3月23日現在